塩屋地区　　歴史文化の視点１

5．塩づくり発祥の地

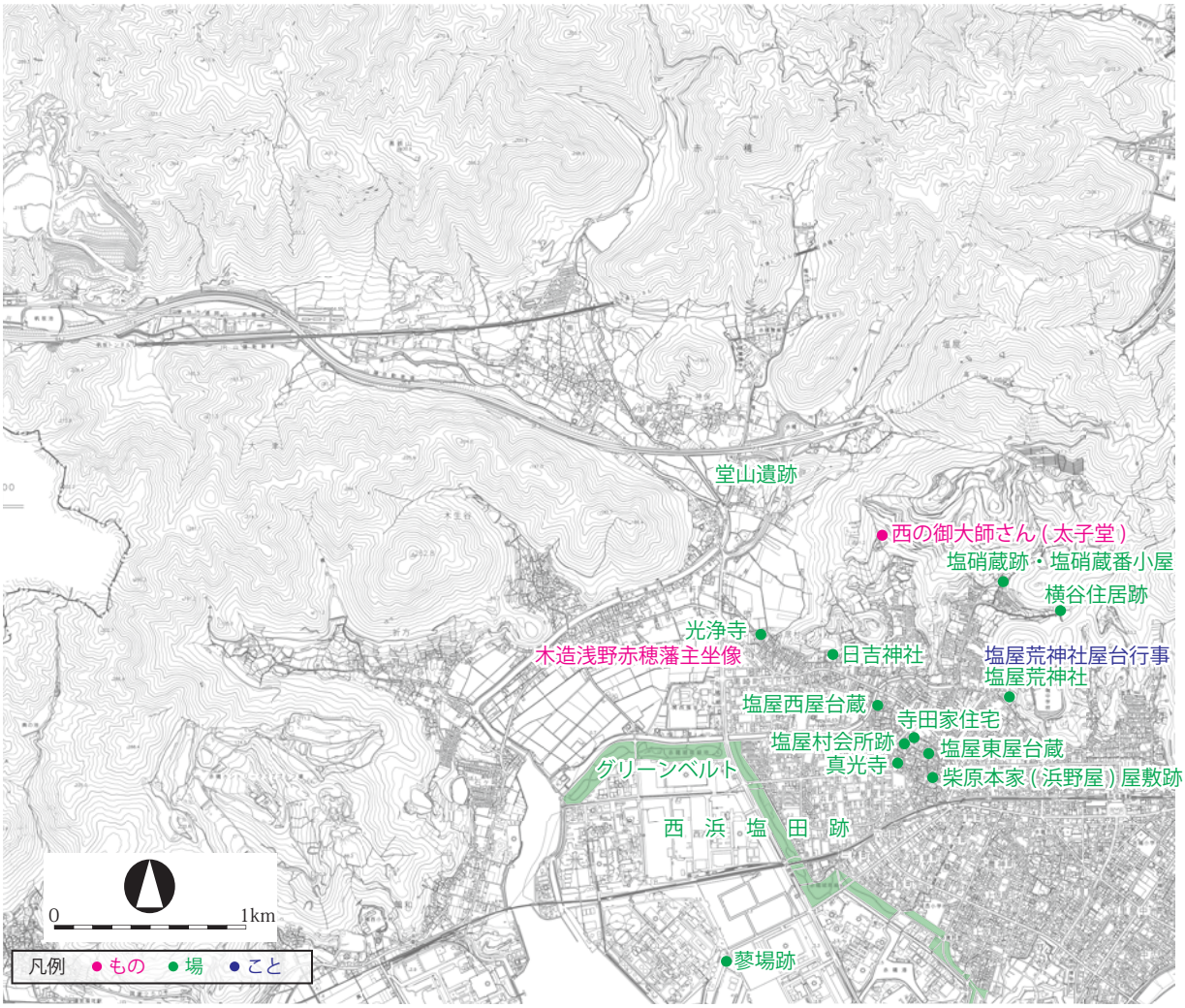
【ストーリー】

堂山遺跡から出土した、古墳時代以来の多量の製塩土器や平安時代の塩田遺構によって、市内で最も古い製塩の地と目されている塩屋地区は、古代に東大寺の荘園「石塩生荘」も築かれているなど、赤穂の塩づくり発祥の地といえる。近世に入って藩の塩田開拓が本格化し、後には「西浜塩田」として一大製塩地となった。

塩屋村は、赤穂城下町の西の押えとしての役割を果たす一方、塩田労働者の村として荒神社や真光寺などを崇拝しながら、赤穂の製塩を支えた。

「東の田淵、西の柴原」といわれ、赤穂藩の財政を大きく支えた柴原家は塩屋村で財を成した。現在では、西浜塩田の有力地主であった寺田家住宅が塩屋地区の隆盛を伝えている。

堂山遺跡

真光寺

塩屋荒神社屋台行事